

河川事業の再評価概要書

() は、前回再評価時

番 号		5	
事業主体		栃木県	
事業名	安全な川づくり事業	事業所管課	県土整備部 河川課
路線・河川名	一級河川 大芦川	事業箇所名	鹿沼市
事業区間	鹿沼市北半田地先～ 鹿沼市引田地先	事業延長	13,200m
平成19年度事業化		平成19年度用地着手	平成20年度工事着手
事業期間	H19～H35	事業進捗状況	基準年次：【平成28年度末時点】
【うち用地補償費】 全体事業費	[6.3億円] 70.0億円		【うち用地補償費】 既投資事業費
事業概要			
<p>大芦川は鹿沼市草久地先に源を発し、鹿沼市を縦貫して南に流れ、鹿沼市北半田地先で思川に合流する一級河川である。</p> <p>計画区間は、屈曲が著しい上に河川断面が狭く、流下能力が不足していることから、豪雨時には宅地や農地に浸水被害が生じている。そこで、河川断面の拡大を図り、氾濫を防止し浸水被害の解消を図る。</p>			
事業を巡る社会経済情勢の変化、事業計画の大幅な変化等			
沿川地域における大きな土地利用の変化はない。			
事業の投資効果			
① 費用対効果分析結果			
		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】
1) 事業全体	B/C=4.4	322.3億円	72.9億円 [L=13,200m 区間]
2) 残事業	B/C=1.2	34.2億円	28.0億円 [L=13,200m 区間]
② 事業の整備効果等			
整備を図ることにより、宅地、商業施設、道路や農地の浸水被害が軽減される。			
事業の進捗状況等			
① 事業の進捗状況			
整備全区間において、第一段階の整備が完了し、概ねQ=900m ³ /sの流下能力を確保している。			
② 今後の事業進捗の見込み			
今後の事業については、河床掘削、護岸工の整備により下流の思川との整合を図り、思川合流点でQ=1200m ³ /sの流下能力を確保できるように進めていく。			
コスト削減等			
① コスト削減方策			
河川工事で発生した土砂は、他事業へ流用し、工事費の削減を図っている。			
② 代替案立案等の可能性			
計画区間において築堤工事が概成しているため、本計画が最適である。			
事業の対応方針 (案)	現計画で事業を継続する。		

事業箇所(位置図、概要図)

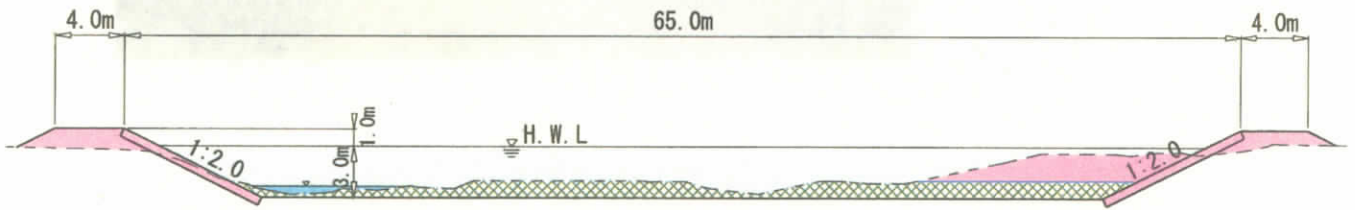
位置図



一級河川 思川

一級河川 大芦川

標準断面図



※荒井川合流地点より上流の計画

■ 現況流下能力流量	: $Q=700\text{m}^3/\text{s}$
■ 計画流量	: $Q=900\text{m}^3/\text{s}$

概要図



①出水状況
大関橋付近



②改修前
大関橋上流付近



③改修後
大関橋上流付近

